



新年明けましておめでとうございます。県下77消防団、2万8千2百人余の団員をはじめ、消防関係者の皆様におかれましては、健やかに令和8年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

消防団員の皆様には、大事な仕事や家庭を持ちながら、郷土への愛着と使命感により住民の皆様の命、身体及び財産を守り、安心、安全な暮らしを確保するため、日夜精励されておられますこと、に、敬意と感謝の意を表します。また、日頃より県消防協会に御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

近年、地球環境の変化などを背景に、国内はもとより世界各国において、これまでと様相の異なる災害が発生しております。昨年11月には大分県で大規模な火災が発生しました。お一人が亡くなり、焼失面積は約5万平米、180棟以上の住宅が全



るという火災でした。火の手が迫る中、消防団員が各戸を回り、高齢者など多くの住民を避難所へ車に載せて運んだと報じられました。ある専門家は「人的被害が最小限に抑えられたことは奇跡的だ」と評されております。言うまでもなく、消防団員の判断と行動が多くの住民の命を救いました。

県内においても、毎年林野火災や豪雨災害が発生しています。南海トラフ地震や東北沖を震源とする地震の発生についても想定されるところです。地域と住民を熟知して、身近で活動する私たち消防団に寄せられる期待は大きく、使命は益々重要なつております。一方で高齢化や地域コミュニティの変化、若者の価値観の多様化などにより、消防団員の確保や団活動の活性化が課題となっています。

県消防協会といたしましては、消防団員の技術

向上や確保のための取り組みを支援するとともに、消防団員の皆様がやりがいを持って活動していただき、各種講習や研修会、福利厚生、表彰、女性消防団員の活性化などに一層取り組んでまいります。

「屠龍(竜)之技」(とりよのぎ・とりゅうのぎ)を紹介します。東京消防庁第六消防方面本部消防救助機動部隊(ハイパーステムキュー)が「心得」として掲示している言葉です。直訳すれば、龍を葬る技、実在しない龍を倒す技などいくら身に着けても意味はない、という無駄な努力を指すことわざです。

——昔、中国の山奥に住み着いて、時折村人に害を及ぼした悪龍を退治しようと、一人の青年が一生をかけて「屠龍(龍を屠る)の技」を磨いた。龍は一度とその姿を現さないまま青年は一生を全うした。村人の中には、無駄なことをしたと笑う者もいた。

て常に訓練を重ねる。「何もないこと」と「何もないこと」のようにしたことは、天と地ほどの差がある、というのです。さらに次のように書き加えています。「われわれは龍の出現の有無に関わらず屠龍技を磨く。実際には天災は起きない方がいい。だから無駄になつたほうがいい。ただし方が一現れたら一撃の元にこれを屠る。それが我々の目指すところである。」

本来は無駄な努力を表す意味ですが、部隊ではこれをポジティブな意味にとつて心得とされています。

本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますように、また災害のない平穀な年となりますように心からお祈り申し上げます。

年のごあいさつ
公益財団法人長野県消防協会会长
福澤 賢治

非ず、悪龍は屠龍の技を磨いていた者が住む村を恐れて避けていたのである

評議員	監事										理事	元常務理事	会長	副会長	副会長	業務執行理事	坂巻剛弘	福澤賢治
	事																	
松木	二木	清水	篠原	五十嵐	菊原	小菅	片桐	藤沢	瀬在	沖中	澤木良太郎	横前敏武	丸山	丸山	上原	由井	柏木智良	奥原康隆
道夫	弘	健悟	充彰	幸男	克年	良文	和博	和重	浩	順一	良偉	明直	隆弘	貴弘	亮一	宏	政仁	重樹

第15回長野県消防団長・事務主任研修大会開催

消防団員指導員研修を実施

した。グループ討議の部では、各消防団の課題や取り組み事例などを活発な意見交換が行われました。



10月8日(水)、松本市内で第15回長野県消防団長・事務主任研修大会を開催しました。大会には消防団長・事務主任、地区消防協会幹事会合わせて151名が参加。前半で、県消防ポンプ操作法、ラッパ吹奏大会の表彰式と県消防団協力事業所等知事表彰式を実施しました。後半は県消防防災航空センター安全運航管理幹の上條信男氏により「消防団と航空隊の活動連携と安全管理」について講義いただきました。

◆受講者名簿	
消防団名	佐久穂町消防団
階級	分団長
氏名	奥水 信二
消防団名	信濃町消防団
階級	分団長
氏名	倉澤 享志
消防団名	山ノ内町消防団
階級	副団長
氏名	佐藤 光孝

副団長、分団長等指導的立場の消防団員を対象に、12月11日(木)と12日(金)の二日間、県消防学校で消防団員指導員研修を実施しました。研修には全地区消防協会から32名が参加。福澤会長の講話、県危機管理部職員による講義や実技などの講座を受講いただきました。



佐久市消防団	副団長	坂本 優希
軽井沢町消防団	副団長	神津 弘幸
小諸市消防団	副団長	良介
御代田町消防団	副団長	坂本 清水
上田市消防団	副団長	康弘
長和町消防団	副団長	匡
青木村消防団	副団長	宮原 一昌
岡谷市消防団	副団長	鷹野原 大樹
富士見町消防団	副団長	宮原 浩文
原村消防団	副団長	増澤 浩文
伊那市消防団	副団長	忍 千明
辰野町消防団	副団長	矢沢 順徳
中川村消防団	副団長	中谷 洋平
上松町消防団	副団長	諏訪 正樹
南木曾町消防団	副団長	上田 康平
亮木村消防団	副団長	古根 逸
辰野町消防団	副団長	中原 順也
上松町消防団	副団長	下出 龍二
南木曾町消防団	副団長	百瀬 晃
松本市消防団	副団長	萩原 太郎
安曇野市消防団	副団長	立野 茂裕
松本市消防団	副団長	中原 順也
塩尻市消防団	副団長	太一 正成
朝日村消防団	副団長	孝明 淳也
大町市消防団	副団長	基貴 佳佐好
坂城町消防団	副団長	小林 金子
小布施町消防団	副団長	片桐 立野
高山村消防団	副団長	佐藤 伸夫
長野市消防団	副団長	中村 光孝

第30回全国女性消防団員活性化長崎大会に参加



11月13日(木)長崎市で第30回全国女性消防団員活性化大会が開催され、女性消防団員や関係者約2,500名が集まりました。



11月5日(水)長野市内で、参与(県協会長経験者13名)を開催しました。参与9名、評議員4名と正副会長が出席。参与会正副会長の改選が行われ、会長に塩崎貞夫氏(須坂市)、副会長に倉坂正道氏(御代田町)が就任しました。前会長の中澤學氏(長野市)は相談役となりました。会議後は県渡邊危機管理部長を来賓に迎え、懇親会を行いました。

参与会開催

た。当県からは、福澤会長、副会長、14市町村消防団の女性消防団員、関係者合わせて58名が参加。ステージでの活動事例発表、記念講演、パネルディスカッションなど、ロビーでは33消防団の展示発表が行われ、会場は女性消防団員の熱気で溢れました。来年は9月25日、札幌市で開催されます。

消防出初式各地で挙行される

令和8年新春の消防出初式が県下各地で挙行されています。（1月実施66、4月実施6市町村）

知事、副知事及び県協会長の出席は次の通りです。

阿部知事

1月18日（日）松川村、池田町

新田副知事

1月4日（日）松本市、高森町

福澤会長

1月4日（日）松本市、5日（月）

川上村、10日（土）長野市、11日（日）東御市、12日（月）飯田市、

13日（火）軽井沢町



1月10日 長野市 部隊行進



1月4日 松本市 観閲式



11月29日（土）県女性消防団員活性化会議開催
回県女性消防団員活性化会議を開催しました。今回会議には須坂市消防本部、須坂市消防団の指導、協力を得て、ドローン体験講習会を実施しました。全員が真剣に取り組んでいます。

第2回県女性消防団員活性化会議開催



1月12日 飯田市 家族表彰

第26回全国女性消防操法大会に出場して

安曇野市消防団女性消防隊 団員 2番員 渡邊 加奈



10月28日、横浜赤レンガ倉庫で開催された第26回全国女性消防操法大会に、長野県代表として出場しました。本大会として出場しました。本大会は2年に1度開かれており、安曇野市としては初めての出場となり、隊長・指揮者・1～4番員・補助員の計7名で編成されたチームの一員として、私は2番員を務めました。選手は50～60歳代のいわゆる“おばちゃんチーム”でした。が、人生経験豊富で明るく前向きなメンバーばかり。ポンプ操法は初挑戦でも、ここ一番の集中力と心意気は誰にも負けませんでした。笑いの絶えない支えでした。



練習場は、私たちの大好きな居場所となりました。取り組みは5月1日の説明会から始まり、立候補者は10名と関心の高さを実感しました。4月入団の私は聞き慣れない号令に必死でついていき、選手選考の30m走では肉離れを起こす不安も抱えましたが、無理をしない練習量と体のケア、食事管理を徹底し、本番まで心身を整えました。選手発表で惜しくも名を呼ばれなかつた仲間の涙を見たとき、彼女たちの思いも背負つて全力で臨む覚悟が固まりました。7月からは服装点検、水出し訓練が始まり、新聞・テレビで紹介されると地域や職場から多くの激励をいただきました。練習日は週2回。毎回、分団や女性消防隊が後方支援に入り、投光器の設置やホース巻きなどを担つてくださいました。本当に心強い

全国大会では仲間と指導員のおかげで平常心を保ち、普段通りの操法を披露。結果は44チーム中21位と目標には届きませんでしたが、怪我なく本番に立ち任務を果たせたことへ感謝の安堵と達成感が大きく残りました。入団1年目で挑んだ半年間は私の宝物です。これからも年齢や性別にとらわれず挑戦を続け、女性消防隊の一員として地域に貢献したいと思います。支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。